移住者インタビュー
Interview

自然も人も街も近い 今の暮らしが「ちょうどいい」

今野もとこさん（コーヒーくろねこ舎経営）＆今野博之さん（福祉施設勤務）

東京在住で営業職だった博之さんと、保育士だったもとこさん夫婦が移住を考え始めたのは、7～8年前のこと。もとこさんは、カフェを開きたいという思いから、パンの店やカフェで働きながら準備をスタート。夫婦でカフェ巡りをするうちに「古民家カフェ」の居心地の良さに魅力を感じ、カフェができる古民家と住居を探し始めたそう。

「当初は、もっと隠れ家的な山の中も考えたのですが、自然と街とのバランスがほどよい場所が自分たちに合っていると思い、物件を探して、〝茂原〟に行きつきました」と語るふたり。古民家の再生も自分たちの力でと、コツコツとDIYで手を入れ、移住してから2年後にお店をオープンさせました。

「コーヒーの焙煎もスイーツ作りも面白いから、カフェの仕事は楽しい」ともとこさん。「100円でもコーヒーが飲める時代に、その4倍以上の料金をいただくには、お客さまに選ばれる工夫が必要。人との繋がりから学ぶことはとても大きいです」。

現在の博之さんの勤務先は、車で約15分、通勤のストレスもないそうです。自然も人も街も近くにあり、無理をしなくていい暮らし。「刺激が欲しくなる時もありますが、そんな時は約1時間で行ける東京へ。この距離感もちょうどいいです」。

コーヒーくろねこ舎

古民家をセルフリノベーションしたBOOKカフェ

茂原市台田327-1
☎080-4403-0319
http://mint0319.blog.fc2.com/

茂原にいても世界が舞台！ 静かな環境が創作に最高

西中千人さん（ガラスアーティスト）

夫婦で茂原に移住したのが約15年前。平塚の工房が手狭になり、もっと広い場所で、東京へのアクセスが良いところを条件に探し、当初は横須賀を候補にしていたけれど、同じ予算で広さ10倍の茂原に魅力を感じ、以前バラ園だった場所を購入。そこへ、ガラススタジオと住居を移しました。「茂原の魅力は、静かで広々とした環境。夜中に作業をしても音や熱などが近隣の迷惑になる心配もなく、ひらめいた時に24時間いつでも、すぐ創作にかかれるのでとても快適です」と西中さん。

「茂原に来て植物を育てるようになり、〝土の中にすべての色と形、生と死がある〟という舞踏家の田中泯さんの言葉を実感しています」と自然と触れ合えるこの環境が、感性の刺激に繋がっているようです。

仕事柄、東京での打ち合わせや全国各地での展覧会、さらにはロンドンやニューヨークなど、世界での活動も頻繁な西中さん。「茂原は、東京へ約1時間でしょ。全国や海外へ行く時も、成田も羽田も約70分で行けるので便利」とガラスアート制作の拠点としても、茂原は快適なようです。ここでの暮らしも海外出張も、マネジメント業務を担う奥さまが常に一緒に行動。そんなふたりらしいライフスタイルが茂原で培われていることを感じました。

Nishinaka Yukito Glass Studio

"Japan Objects"で日本の輝かしいガラスアーティスト10人にも選ばれた世界で活躍する西中さんのガラス工房。魂を込めた作品がここで誕生する